

平成29年度第1回船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 会議録

開催日時：平成29年12月12日（火） 13時10分～15時00分

開催場所：船橋市役所本庁舎9階 第1会議室

出席者：

（委員）	板谷 直正	船橋商工会議所 会頭
	杉田 修	船橋市 企画財政部長
	櫻井 慎一	日本大学 理工学部 海洋建築工学科 教授
	宮内 繁男	株式会社 千葉銀行 執行役員 船橋支店長
	阿部 三也	一般社団法人 船橋労働基準協会 専務理事・事務局長
	本木 次夫	船橋市自治会連合協議会 会長

（事務局）政策企画課 大竹課長、平野課長補佐、松本係長、藤野主任主事、居多主事、鈴木主事、宍戸主事

（配布資料）

1. 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会設置要綱
2. 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿
3. 人口ビジョンにおける推計人口と実績人口の推移
4. 「船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2015～2019）の概要
5. 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧表
6. 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況報告書
7. 東京湾ツーリズム旅客船運航実証実験事業

1. 開会

○事務局

定刻となったので、これより平成29年度第1回船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会を開催する。本懇話会は公開であるが、本日傍聴希望者はいなかった。

なお、株式会社時事通信社 小谷瀬委員は、都合により欠席である。

○杉田委員

本日は、お忙しい中、船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会にご出席いただき感謝申し上げます。

本懇話会においては、総合戦略の進捗状況及び地方創生関係交付金事業の効果を客観的に検証するため、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働関係団体、メディア、住民を代表する皆さまにお集まりいただき、意見交換していただくことで、その方向性を検

証する上での参考とさせていただくものとして開催させていただいた。

皆さまのご忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 議題

議題1 懇話会の設置趣旨について

議題2 委員紹介

○事務局

※ 「資料1 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会設置要綱」、「資料2 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿」にもとづいて説明が行われた。

議題3 人口ビジョンと人口動向実績の分析

○事務局

※ 「資料3 人口ビジョンにおける推計人口と実績人口の推移」にもとづいて説明が行われた。

○宮内委員

推計の根拠や考え方というものは、どのようなものなのか。

○事務局

コーホート要因法という国と同様の方法を用いて推計している。例えば、今20歳の世代が、翌年度以降21歳、22歳と年代が段々と上がっていくが、その中での年齢ごとの死亡率や人口の移動といったものがデータとしてあるので、それを推計の中に反映させていくという作業を全ての年代について行うという手法である。

今回上振れをしている要因であるが、もともと人口ビジョンは直近5年間の人口移動率を使用しており、将来見込まれる大規模開発というものは反映していない。そのため、大規模開発が行われているところが上振れしているという傾向が見られた。

○本木委員

前原あたりが予測値とほとんど一致しており、この辺の予測は良かった。同じ東部の中で習志野台がマンションの開発の影響で増えているということであったが、もともと習志野台は24地区コミュニティの中で一番人口が多かった地域である。なぜ人口ビジョンでは減少する見込みであったのか。

夏見は、マンションが建っている実感がある。高根台は、大規模開発があったと説明をしていたが、それが人口ビジョンと実績との乖離になるほどのものなのか。

豊富地区の小室の開発はそれほど大きな開発ではなく、中部の芝山でも同規模の開発が進んでいる。薬円台は、人口が急激に伸びた時期があったが、伸びきった感があり、人口

ビジョンより実績が減っている。中山や津田沼はマンション街ということもあり、その影響があると考えられる。

いずれにしても、実態を前提に人口ビジョンの見直しをする必要があるのではないかと。

○事務局

それぞれの地域の特性からのご意見をいただいたところであるが、やはり先ほど説明したように、大きな開発があったことが一つの要因と考えている。

習志野台については、もともと人口の多いエリアであったので、緩やかながら減少していくという予測をしていた。しかし、最近では船橋アリーナ入口をはじめとするマンションの開発が進み、新たな人の流れができたとみている。

平成 34 年に生産緑地法の指定解除があり、農業後継者の方がそれを続けるか続けないかという大きな選択を迫られる時期が来る。夏見をはじめ、塚田や法典、西船といった東武線と武蔵野線で挟まれているエリアは生産緑地が非常に多く、もしそこで大規模開発が行われたら、まちの形が変わってしまうくらい非常に大きなものとなる。

高根台は、UR と民間が開発を行った。開発をしてから入居という形になるので、その分時点がずれたのではないかと考えており、このまま右肩上がりで乖離していくとは考えていない。

確かに人口推計の見直しはしていかないといけないと考えている。一方で、この人口ビジョンをベースに様々な市の計画が成り立っており、ここで人口ビジョンを大幅に変えてしまうと、他の計画にも影響が出てしまうので、タイミングを計っていかなければならない。まち・ひと・しごと創生総合戦略が平成 31 年度までなので、基本的にはこのタイミングで見なければいけないと考えている。また、船橋市の総合計画の計画期間が平成 32 年度までとなっており、新たな総合計画の策定については、平成 30 年度から取り掛かるというスケジュールを現在考えている。今の人口の乖離状況と動態が、今後のまちの根幹になるため、その中で見直しを始めたかと考えている。

○本木委員

いつの時点で人口ビジョンを見直すのかと申し上げたのは、他の計画のベースとなっているものなので、やはり早期に見直しを考えていかなければいけないと感じたからである。開発の状況など、新しいものを視野に入れた中で早いうちに見直しを行い、他の計画に反映していくべきだと感じる。

○事務局

まず、塚田駅付近にある AGC テクノガラス工場跡地のうち、2ha を市が購入しており、平成 30 年度から新たな小学校建設を始める予定である。

海老川上流地区にも新たなまちづくりをしようという計画をしている。組合施行の区画

整理がベースとなるが、その中で東葉高速鉄道の新駅を設置して、新たに人を呼び込める健康をテーマとした将来につながるようなまちづくりをしようと考えている。

また、JR 南船橋駅前に県の企業庁から譲渡を受けた 4.5ha の土地でのまちづくりがこれから本格的に始まる。

少なくとも今の人口ビジョンの流れだけではとても収まらない、将来的に人口増加が見込まれる部分があるため、そういったところを確実に反映していかなければならないと考えている。

○本木委員

先ほど生産緑地の話があったが、現時点においても生産緑地の解除が多くなっている。今までよりも地域が変容するスピードが早いと感じるので、そういった新たなファクターを入れた上で、なるべく早く人口ビジョンの見直しをするべきだと考える。

議題 4 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況

○事務局

※ 「資料 4 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019）の概要」、「資料 5 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧表」、「資料 6 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況報告書」にもとづいて説明が行われた。

○宮内委員

4 ページ目の企業を起こした数について、あまり順調でないと評価しているが、実績が 16 人というのは、見方によってはかなり厳しい状況ではないか。船橋は都心に近く、マーケットとしては非常にいいと思う。行政側としてアクションがあれば、もっと起こせるのではないか。

○事務局

「特定創業支援事業」の講座を受けた方からの起業者数なので、実際に起業された方は、もっと多くいるのではないかと考えている。

○宮内委員

実際、現場で感じるのは、もっと多い。それだけ船橋はすごくいいマーケットだと思う。

○事務局

この目標設定が高すぎたのか、それとも現実はまだ多いのか。ただ、講座は毎回ほぼ満席で、受講されている方は起業に向けて関心があるから受けられていると思う。

実際に起業する場合、全て自助努力だけでできるわけではなく、スタートの段階で、例

えば行政側からこういった支援があればもっと起業しやすくなるといったものがあれば、参考までにお聞かせ願いたい。

○宮内委員

おそらく実態としては、16人より何倍も多いと感じている。実際に講座を受けた方の中に、今起業の計画を練っている方や、結果として船橋で起業しない方もいるのではないかと。講座を受けにきた人の住所は全て船橋なのか。

○事務局

船橋市に在勤・在住の方が中心だと思う。

○宮内委員

船橋以外で起業している方もかなり多いのではないかと。銀行として見ている中で、ここまで手厚く起業支援を行っている行政は多くない。

○本木委員

市外から来る人たちを少しでも増やすという前提で決定的な欠陥は、ホテルをはじめ宿泊施設が少ないことである。アンデルセン公園や三番瀬環境学習館といった施設を抱えていることをPRの素材にすれば、まだまだ市外からのお客様を呼べる。しかし、来た人が滞留してゆっくりしていただくには、やはりホテルが必要ではないか。

保育園について、待機児童が全国2位になった要因はなにか。施設が足りないのか、保育士が足りないのか。今の保育園の入所条件とか、そのようなところにも知恵を出せる部分があるのではないかと。

基本目標3について、船橋には子育て支援センターが2つあるが、同じような機能を児童ホームと地区社会福祉協議会が担っている。もっと子育て支援センターの機能を児童ホームが発揮できるような方法や、地域の資源をもっとそこに集中して活かせるような知恵が出せないか。

基本目標4について、高齢者の社会参加促進は非常に大事な部分である。今地域を支えているのは、いわゆる65歳以上の高齢者がほとんど。高齢者をどのように社会参加させて、地域の活性化にどのように活かしていくのか、こういう知恵を市民と一緒に考える時期ではないか。

○板谷委員

しごとの創生について、ベンチャープラザ船橋は今年で10年目を迎えた。中小企業庁の方針ではだいたい5年で卒業ということになっているが、卒業してもすぐ会社を立ち上げられない。それだけの資金もないし、開発製品を販売するまで力をつけるには、もう少し

時間がかかる。現在困っていることは、卒業してもいくところがない、入る場所がないということである。公共でも民間でもいいが、そういった施設を考えてあげなければいけないと考えている。

○事務局

宿泊施設の件については、例えば南船橋駅前、JRの駅前であり、ホテル需要はかなりあると思っていたが、開発事業者、ホテル事業者、シンクタンクなど、様々な方に意見を聞くと、海浜幕張や浦安に挟まれたこのエリアの中では、いかに利便性が高くても経営という観点からは難しいという話であった。

本木委員のご意見のとおり、船橋に滞留してもらって、いろいろなところに出かけてもらうための拠点としては、宿泊施設は重要なものと思っている。全国からお客さんをお呼びして船橋で会議を開こうとしても、宿泊施設がなく、周辺に宿泊してもらわないと会議も開けないという現状になっている。行政としても、今後どうしていけばいいのか、なかなか難しい面だと思っている。

子育て支援機能としての児童ホームの件について、保育だけでなく、やはり子供の一貫した大人になるまでの支援、子育て環境の充実という観点からは、幼少期や小学校に入っただけの児童ホームというのは、重要な位置づけであるべきであり、充実させていかなければならないと考えている。

地域における高齢者の社会参加というのは、まさに今後の船橋の抱える一番大事なことだと思っている。いかに健康で地域で活躍していただけるか。船橋市には様々なキャリアを積んだ方が住んでいる。そういった方々をまちづくりに活かしていけるような仕組みづくりというのは、大事な取り組みとして、市として考えなければならないことと思っている。

ベンチャープラザの件について、確かに卒業して行き場がないという話を聞いたことがある。このあたりのことは船橋市商工業戦略プランの分科会などで議論しているのか。

○板谷委員

議論している。市の方とも話し合いをしている。

○事務局

待機児童対策について、船橋市の待機児童は平成27年にワースト2、世田谷区に続いて2位となった。要因は何かというお話があったが、一番大きい理由としては、やはり人口増加の影響が顕著に表れている。

生産年齢人口の増加により、今は共働き世帯もかなり多くいることから、保育需要の増加に対して施設の整備が追い付かなかったということが原因となっている。そしてもう一つ、保育士不足という全国的な要因もあり、待機児童が非常に多くなってしまった。

それに対応するために、平成 27 年に待機児童解消緊急アクションプランを策定し、箱と人、という二本立てで、施設の整備を緊急的に進め、2 か年で 2,000 人分の保育の受け入れを確保すること、保育士確保のために手当金を充実させていくということを行った。一定の成果が出ており、平成 28 年、29 年と待機児童は減少している。

ただ、保育需要については、国の方も人口減少社会の中で女性の労働力を必要としていることから、保育需要が上がっていくことが予測されており、今までと同じように施設を建て続けるのではなく、制度についての見直し、入所の条件などに目を向けて、対策を練っていく必要があると考えている。

○板谷委員

しごとの創生について、働いている人の 7 割は中小企業で働いており、中小企業をいかに維持していくかということが問題である。大企業の海外進出に伴い、国内の仕事が減っている。それに対して、中小企業は新しい製品の開発を進め、自立する方向で考えている。

船橋は海岸線に沿って企業団地があるが、企業護岸をいかに修復するのかということが問題となっている。企業護岸の修復が進まないために、中小企業が他の地域に移る事態にもなっており、いかにこれを食い止めるかということで、地域の団体が困っている。

○事務局

企業護岸については、確かに大変なことだという課題の認識は持っている。市単独での支援が財政的にも難しいことから、県にも協力を仰ぎようとして要望をあげている。引き続き、経済部、あるいは建設局を含め、この問題をしっかりと受け止めていかなければならないと考えている。

○板谷委員

国の方にも話をしたが、その時に言われたのは、まず船橋市で計画をはっきりさせるようにということであった。よろしくお願ひしたい。

○櫻井委員

定住人口の乖離と観光の問題について。人口減少社会の中でも船橋市は人口が増えているということだが、人口で一番大事なのは、20~40 歳くらいの女性がどれくらいいるかということである。今回若い女性はどれくらい増えたのか。

それから、先ほど待機児童の問題があったが、保育需要が高い地域と保育所はマッチングしているのか。

私どもの大学は市内に住む学生も多いので、学生のうちから就職しても船橋市に住んでいけるような PR みたいなことをやってもよいかと思う。

観光客の方は、アンデルセン公園や三番瀬海浜公園はどちらも鉄道で行くのが非常に不

便である。また、昔からの問題でもあるが、車の渋滞がどちらもすごく激しい。今回の総合戦略には交通問題の記述がなかったが、船橋市として車の渋滞をどう解消していくのか。

船橋ヘルスセンターに変わって、ららぽーとやイケアができていて、オートレース場跡地には何か観光客を呼べるような施設に変わっていくような計画はあるのか。

○事務局

順不同になるが、オートレース場の土地については、市の持ち物ではなく、底地は三井不動産、施設はよみうりランドが持っていた。市としては、まちの発展につながるような施設を作ってほしいという話はしてきたが、物流倉庫になることとなった。しかし、ただのコンクリートの塊ではなく、南船橋の回遊性を創出する一つの役割を担っていただけないかと話をさせていただいた。眺望がいいので、常時ではないが、展望デッキの住民開放や、カフェテリアや広大な緑地などを整備するといった話がある。単なる倉庫群ではなく、ある程度、まちの憩いの場となるようなものに生まれ変わっていくものと期待している。

道路問題の記述がない理由については、今回の総合戦略は5年で実現可能と見込めた施策を掲載しているためであり、問題意識がまったくなかったというわけではない。アンデルセン公園がトリップアドバイザーの日本の人気テーマパーク3位になったということが大々的に放送され、その結果大渋滞が発生して、大問題となった。現在は、アンデルセン公園の北側にある新京成電鉄の土地を一時的にお借りして臨時駐車場とし、来園者をピストン輸送するというような対応をとっている。道路事情は長年にわたって解決していかなければならない問題と思っている。

女性の人口について、生産年齢人口は市全体として増えている傾向にあるが、地域差がある。生産年齢人口において、20代の方の増加というのが特徴的であり、30代、40代前半の方は減少傾向、40代後半の方から増加傾向となっている。直接的に出生率にどう影響があるかは、今後の動向を見守っていく必要があると考えている。

待機児童対策について、地域性は考慮している。市域を5地域に分け、さらに24コミュニティの中で保育需要の動向をかなり詳しく分析している。その中で需要の特に多い地域については、最優先地域と定めて、その範囲内での公募を行っており、ある程度保育需要にあった整備ができていないかと考えている。

議題5 平成28年度地方創生加速化交付金事業の効果検証

○事務局

※ 「資料7 東京湾ツーリズム旅客船運航実証実験事業」にもとづいて説明が行われた。

○櫻井委員

利用者からのアンケートを分析していると思うが、どのような意見があったか。

○事務局

ツアー全体で約 85%の人が満足と回答している。その中でも、特に千葉市動物公園とふなばしアンデルセン公園の満足度が高い傾向がある。また、今後の乗船意欲について、85%以上の人がまた乗船したいと回答している。

○櫻井委員

事業の PR はどう行ったのか。

○事務局

パッケージから宣伝まで日本旅行に委託した。旅行系雑誌のぼけかる倶楽部や東京ウォーカー、地元のミニコミ誌等を媒体に、都内を中心に広告を行った。いかに東京の方に船を使って船橋や千葉に来ていただくかの効果検証をするための実証実験だったため、東京の方への宣伝広告を行った。

○本木委員

利用者の居住区分は、どうなっているのか。

○事務局

都内在住者が4割ほど、千葉県内在住者が4割ほどであった。有明から船に乗り、東京湾を通過して自分の住んでいるところに来るといった経験はほとんどないため、非常に新鮮に映ったのではないかと。「船橋にこういった海があったのか」や「船橋に海があるのだと改めて認識しました」というようなご意見をいただいた。

今後の改善策や課題であるが、これを実証実験だけで終わるのは忍びないと考えている。今回は国の交付金を活用したため 4,000 円といった低額な金額で実施できた。もしこれを一般市場の価格でやろうとすると 10,000 円は超えてくるため、商品性に疑問があったが、阪急交通社はサッポロビール工場と SHIRASE のツアーは非常に需要が高いと判断し、自主的な企画で日帰りツアーを 1 万円を少し切る価格で実施した。また、船会社より冬場の三番瀬のダイヤモンド富士と工場の夜景等を組み合わせた形で、乗合運行を企画したいとの話もある。

船橋市も回遊性向上を進めていくなかで、水上交通をうまく使ってまちの活性化をさらに図っていきたいと考えており、このあたりを今後しっかりと取り組んでいければと考えている。

○阿部委員

市外からの観光客を狙うこういったツアーのようなものは、意外と船橋市民も知らないのではないかと。できるだけ市内の方にも周知し、さらなる活性化を図っていただきたい。

○事務局

乗合運行については、むしろ船橋市民に案内していた。期間が短かった点や、乗り場までのアクセスの悪さから車で送ってもらわないと難しかったという点があったが、ある程度の利用があった。乗った方の意見を聞くと、「船橋から船に乗れるということで今回参加してみました。非常に楽しかったです。」というご意見もいただいた。

○宮内委員

高瀬町からはバスで移動するのか。

○事務局

高瀬町からはバスで移動する。今現在、船橋市が所有する栈橋がないため、京葉食品コンビナートが所有する栈橋や千葉県葛南港湾事務所が所有する栈橋を一時的に借り、そこから乗り降りしている。今後水上交通も含め、実施するのであれば、栈橋問題も併せて考えていかなければならないと考えている。

結果として、利用率も高く、評判も良かったため、本事業は地方創生に効果があったという評価をさせていただきたいが、いかがか。

○各委員

賛成。

○事務局

それではそのように評価をさせていただく。

3. 閉会

○事務局

本日は様々なご意見をいただき感謝申し上げます。いろいろと市に対するご要望や、これから取り組んでいかなければならない点など、改めて重く受け止めさせていただきたいと思っている。